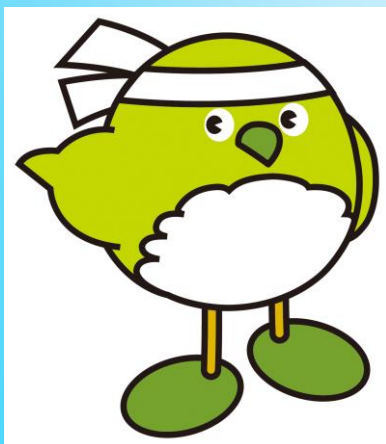


令和2年度 佐伯教育事務所管内

第3回地域授業改善協議会



令和3年1月18日（月）

大分県教育庁佐伯教育事務所

※説明・協議・演習の流れについて

協議・演習＜1＞14:40～15:30

- ・発表についてのグループワーク等

～休憩10分～

説明・演習＜2＞15:40～16:20

- ・自校の「学校評価の4点セット」を用いた個人ワーク

<発表内容の概要>

◆佐伯市立上堅田小学校

- ・主任等による主体的な提案, チーム運営等について

◆佐伯市立宇目緑豊中学校

- ・全体とチームとを往還した年間サイクルによる短期の確実な
検証・改善の実施等について

<2校の発表内容から学びたい4つのポイント>

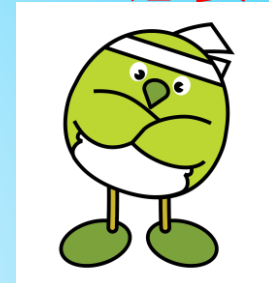
- ①組織の縦軸と横軸の動きを活性化させ, 喫緊の課題を全員で共有している。
- ②課題解決に向けた個々の提案が全体の取組に広がる等, 主任等が中心となって, 取組が短期に改善されている。
- ③個々が「学校評価の4点セット」をツールとして共有し, 年間の検証・改善の見通しをもっている。
- ④達成指標を意識した取組を全体とチームの往還の中で進めている。

◇協議・演習 <1> 14:40～15:30

① 個人

2校の発表から学びたい4つのポイントを実現していくために必要と思われることを付箋紙にそれぞれ書き出します。

10分間(14:40～14:50)

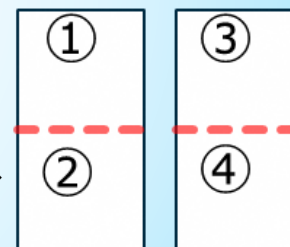


② グループ

似たものを寄せながら各自の付箋を出し合い、4つのポイントそれぞれについて、どのようなことが必要と考えられるか話し合ってください。

30分間(14:50～15:20)

ホワイトボードのイメージ⇒



③ 交流

②でまとめた内容や話し合う中で気付いたこと等を小・中学校から1グループずつ発表をお願いします。(各5分程度)

10分間(15:20～15:30)

==休憩(15:30～15:40)==

◇説明・演習<2> 15:50~16:25

①説明

②自校の「学校評価の4点セット」を用いた
個人ワーク

「学校マネジメントの深化に向けた短期及び年度を跨いだ検証・改善」

「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ

令和2年3月
大分県教育委員会

第3ステージ「学校マネジメント4つの観点」に係る評価基準(プラン冊子P40)

観点	項目	S	A	B
観点Ⅰ	学校の教育目標、重点目標等の設定・共有(Plan)	① 育成を目指す資質・能力を踏まえた 家庭・地域と共有できる明確な 学校の教育目標、教育目標の達成に向けた課題を捉えた重点目標、短期の検証・改善が可能な、重点目標の達成に不可欠な 重要な根拠や理由を説明できる 重点的取組及び取組指標となっている。 ② Aに同じ。	① 育成を目指す資質・能力を踏まえた学校の教育目標、教育目標の達成に向け課題を捉えた重点目標、短期の検証・改善が可能な、重点目標の達成に不可欠な 重要な根拠及び取組指標 となっている。 ② Aに同じ。	
観点Ⅱ	短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施(Check・Action)	① 客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認、児童生徒の実態把握を効率的に行った上で、重点的取組の有効性や取組指標の妥当性の検証と改善方策の検討が、「 検証・改善プロセス 」に沿って 効果的 に行われている。	① 客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認、児童生徒の実態把握を効率的に行った上で、重点的取組の有効性や取組指標の妥当性の検証と改善方策の検討が年度の中で繰り返し行われ、その検証結果を元に次年度の「学校評価の4点セット」が策定されている。	
観点Ⅲ	主任等が効果的に機能する学校運営体制(ミドル・アップダウン・マネジメント、効果的・効率的なチーム体制の構築)	① 制」の中で、以下の役割と責任が主任等によって 果たされている 。 ※役割と責任はAに同じ。 ② 会議・分掌・行事等の見直しにより 学校運営が効率化 されとともに、少人数種・専門スタッフや福祉・警察等の関係機関との連携体制が構築され、 目的的な役割共有が十分に 行われている。	体制」の中で、以下の役割と責任が主任等と身えられている。 ・運営委員会での具体的な取組の提案・教職員に対する校長の運営方針の周知、取組の進捗管理等での指導・助言・他の学年・分掌主任等との連携・協議 ② 会議・分掌・行事等の見直しと、少人数種・専門スタッフや福祉・警察等の関係機関との連携体制が構築されている。	
観点Ⅳ	学校・家庭・地域による目標の協働達成(目標協働達成)	① 目標協働達成に向けたチームが組織され、児童生徒の現状・課題、学校の教育目標や「学校評価の4点セット」等の取組内容が 熟議され、取組や行事等の質の向上と精選・見直し、家庭・地域との役割分担の明確化・適正化 が図られている。	① 目標協働達成に向けたチームが組織され、児童生徒の現状・課題、学校の教育目標や「学校評価の4点セット」等の取組内容が共有されている。	

観点Ⅱ	短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施 (Check・Action)	① 客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認、児童生徒の実態把握を効率的に行った上で、重点的取組の有効性や取組指標の妥当性の検証と改善方策の検討が、「 検証・改善プロセス 」に沿って 効果的 に行われている。	① 客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認、児童生徒の実態把握を効率的に行った上で、重点的取組の有効性や取組指標の妥当性の検証と改善方策の検討が年度の中で繰り返し行われ、その検証結果を元に次年度の「 学校評価の4点セット 」が策定されている。
		S評価	A評価

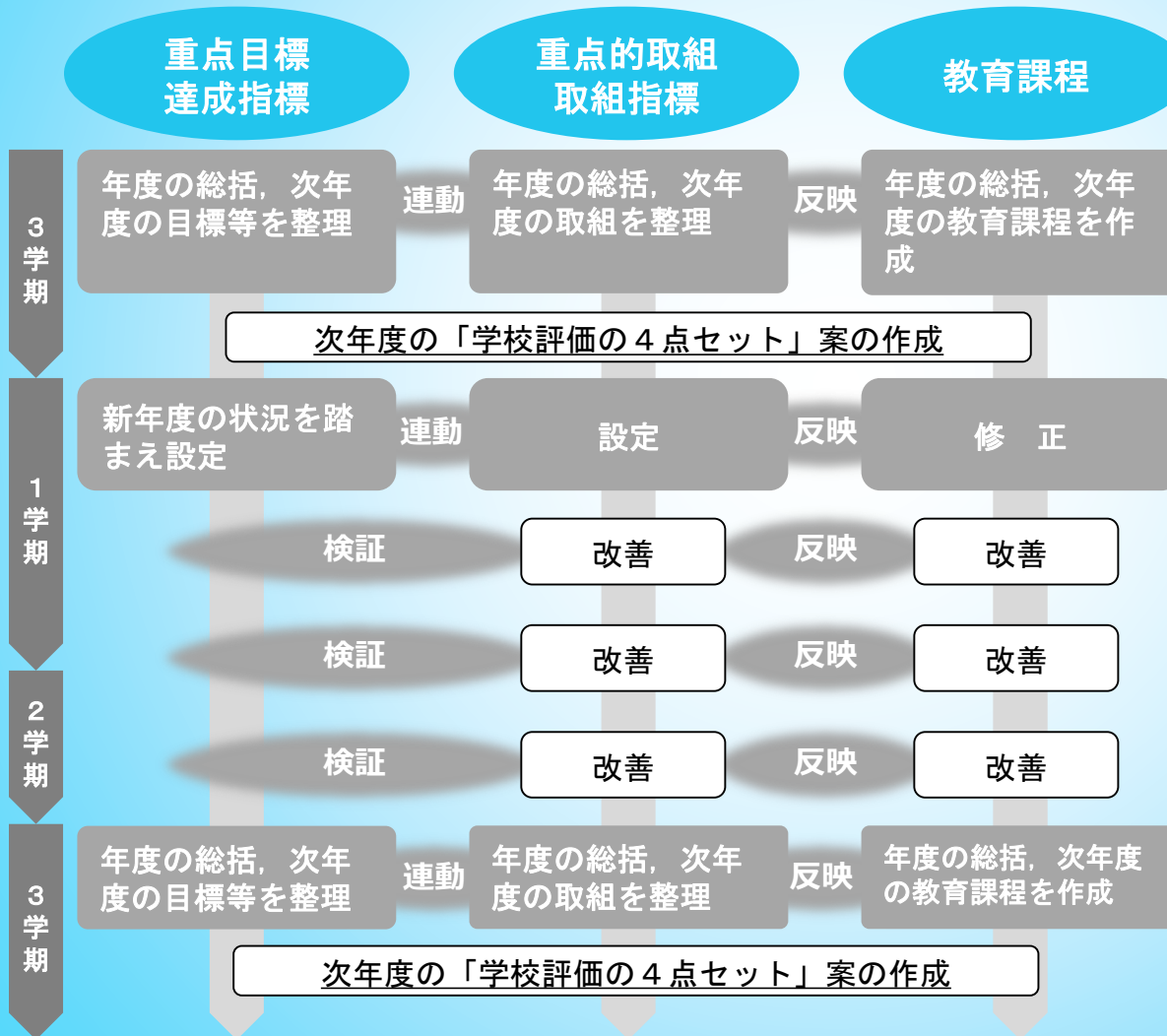
「A」評価に達し

「学校マネジメントの深化に向けた短期及び年度を跨いだ検証・改善」

検証・改善プロセス

「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ冊子P41より抜粋

検証・改善サイクル



学校運営協議会の 主な熟議内容 (年3～6回開催する場合)

- [3学期 (2～3月)]
- ◆ 1年間の取組の総括, 検証・改善等
 - ◆ 育成を目指す子ども像と資質・能力
 - ◆ 次年度の「学校評価の4点セット」案
 - ◆ 次年度の年間活動計画案 (行事等の精選・見直し, 役割分担の見直し含む)

- [1学期 (4～5月)]
- ◆ 育成を目指す子ども像と資質・能力の確認
 - ◆ 「学校評価の4点セット」
 - ◆ 年間活動計画・活動内容
 - ◆ 各取組の進捗管理, 検証・改善

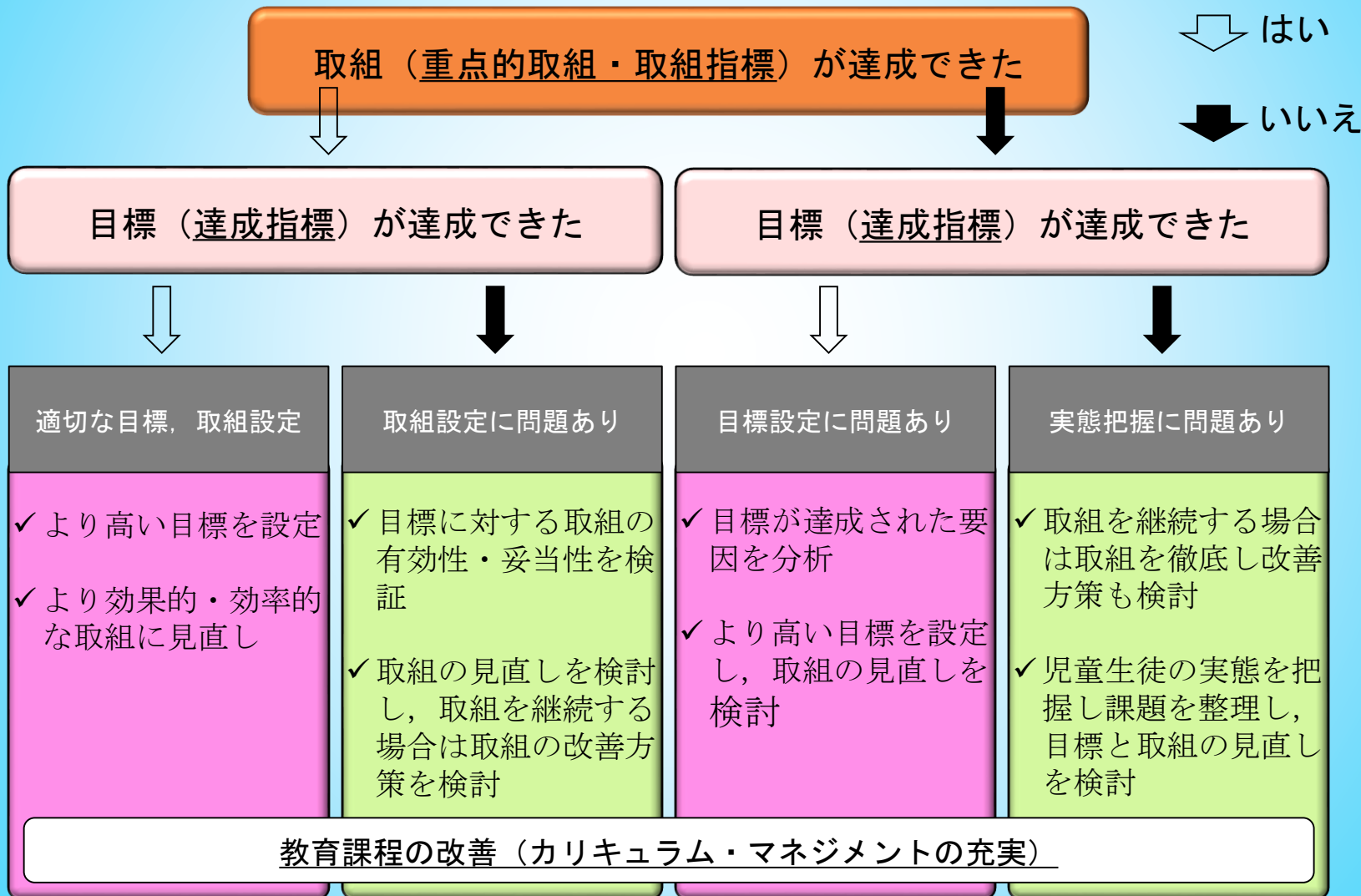
- [夏期, 2学期 (7～12月)]
- ◆ 各取組の進捗管理, 検証・改善

「学校マネジメントの深化に向けた短期及び年度を跨いだ検証・改善」

検証・改善プロセス

「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ冊子P41より抜粋

検証・改善フロー



「検証・改善フローに沿った検証・改善」

上堅田小学校「思考力・判断力・表現力等の育成」欄の学校の取組（一部）

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	取組指標の実施率
葉 自 分 の 考 え や 気 持 ち を 言 葉 で 表 現 す る 力 の 育 成	○国語・算数期末まとめ テスト及び4年生市テスト、 他学年標準学力調査にお ける無回答率■%以下 ○……	○自分の考え や気持ちを言葉 で表現する指導 の充実	・毎週金曜日10分間の朝 学習「J-Talk」で、各学年 国語科における「話す・聞 く」領域の指導を重点的に 行う。 …… ・毎週金曜日10分間の朝学習 「J-Talk」で、聞き取りテストを 2Wに1回実施。また、毎週末に 「せつめいもんだい」を家庭学習 で実施。	100%

取組指標を具体化

1.重点的取組の取組状況を取組指標に基づき確認・検証

取組指標の実施率100%

2.重点目標の達成度合いを達成指標に照らして確認・検証

達成指標 未達成

3.達成指標・取組指標の妥当性を検証

取組指標の取組内容を一部変更し、
新4点セットにすぐに反映

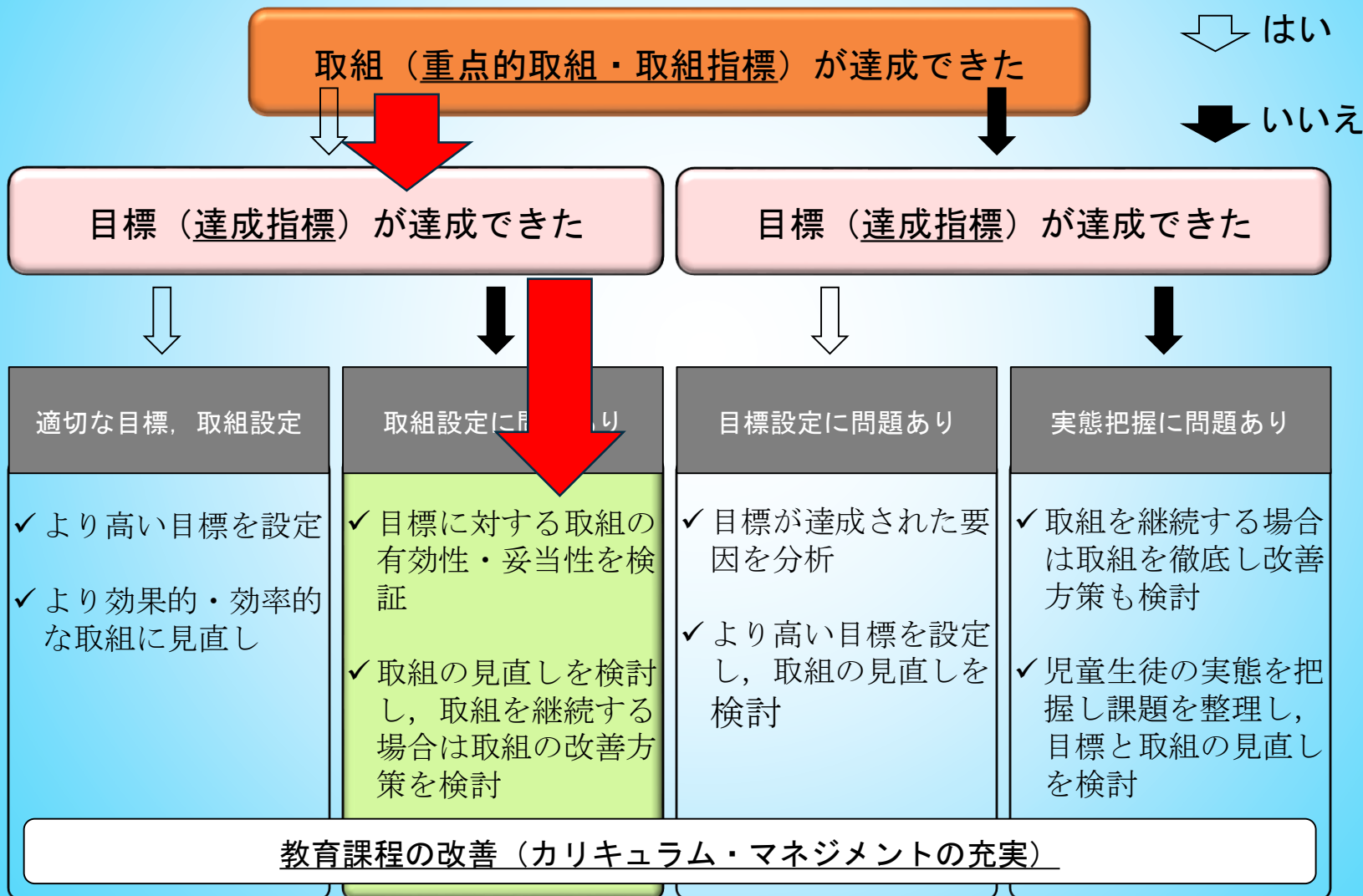
以上の検証を踏まえ要因分析を加えた上で改善方策を検討

「学校マネジメントの深化に向けた短期及び年度を跨いだ検証・改善」

「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ冊子より抜粋

検証・改善プロセス

検証・改善フロー



「検証・改善フローに沿った検証・改善」

宇目緑豊中学校「知識・技能の習得」欄の検証・改善欄（一部）

検証・改善【3】回目

◇新4点セットにすぐに反映

改善方策

実施の取組指標	取組指標に対する取組状況の確認	達成率	達成状況	改善方策																																								
	○「振り返り」の時間を取れないときもあった。	○2学期中間テストにおいて	<p>・得点7割以上の生徒60%以上</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>国語</th> <th>社会</th> <th>数学</th> <th>理科</th> <th>英語</th> <th>平均</th> <th>全平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均	1年								<p>【達成指標の妥当性】→妥当</p> <p>・③については、前回の達成率を少しだけ下回り、引き続き100%を超えているが、「今後の学習の難易度が増すこと、教科によっては達成できていないこと」を考慮すると、達成指標は現状維持が妥当。</p>																								
	国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均																																					
1年																																												
	・週末の課題は与えているが、ワークの課題の割合が高い。 ・週末ではないときもあった。																																											
	○手立ての工夫が十分にできていない。毎時間はできていない。 ○毎時間はできていない。 ○10月に実施できなかった。	・得点3割以上の生徒90%以上	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>国語</th> <th>社会</th> <th>数学</th> <th>理科</th> <th>英語</th> <th>平均</th> <th>全平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均	1年								2年								3年								平均								<p>【達成指標の妥当性】→妥当</p> <p>・④については、前回の達成率74%から今回80.7%にアップした。引き続き達成指標85%に向けて取り組みたいため達成指標の変更はしない。</p> <p>【取組指標の妥当性】</p> <p>■全ての達成指標の達成率が少しずつではあるが向上しているため、取組指標は妥当であると考えます。</p>
	国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均																																					
1年																																												
2年																																												
3年																																												
平均																																												
		○「授業の最後に、その1時間の授業の学習内容を振り返ることができている」と肯定的に回答する生徒85%以上	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>国語</th> <th>社会</th> <th>数学</th> <th>理科</th> <th>英語</th> <th>平均</th> <th>全平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均	1年								2年								3年								<p>○達成率104.2%</p> <p>○達成率104.2%の指標を、この4点セットからは削除する。（4点セットからは削除するが取組は続行する。）</p> <p>・学校②については、週末という縛りではなく、「週に1回のペースにした方が現実的である」という意見があったので検討する。</p>								
	国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均																																					
1年																																												
2年																																												
3年																																												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>国語</th> <th>社会</th> <th>数学</th> <th>理科</th> <th>英語</th> <th>平均</th> <th>全平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均	1年								2年								3年								<p>○達成率104.2%</p> <p>○達成率104.2%の指標を、この4点セットからは削除する。（4点セットからは削除するが取組は続行する。）</p>								
	国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均																																					
1年																																												
2年																																												
3年																																												

◇達成指標及び取組指標の妥当性を詳細に検証

取組指標の内容の頻度を変更

◇検証を踏まえ要因分析を加えた上で改善方策を具体的に策定

【取組指標の変更】

- ・学校②→○教科担任は、週に1回、授業と関連した問題データベースを活用した宿題を与える。

【取組指標の削除】

- ・学校③→2つ目と3つ目の取組指標は削除する。
- ・家庭②→取組を削除（当たり前に行っているため）

◆短期に検証・改善を進めている2校の取組 に共通していること

- 客観的データを用いて、取組状況や達成状況の確認、児童生徒の実態把握を行っている。
- その上で、各指標の妥当性の検証と改善方策の検討が年度の中で繰り返し(最低学期に1回)行われている。(観点Ⅱ)

に留まらずに、さらに

- ◎取組状況や達成状況の確認に基づいた各種指標等の見直しを検証・改善フローに沿って行い、更新された内容を、4点セットに明記している。(観点Ⅱ)

◎取組状況や達成状況の確認に基づいた各種指標等の見直しを検証・改善フローに沿って行い、更新された内容を、4点セットに明記している。

取組を進める上で



○取組指標を具体化・焦点化することで、個々が取り組む内容が分かりやすい。

⇒観点 I（学校の教育目標，重点目標等の設定・共有）

◎取組状況や達成状況の確認に基づいた各種指標等の見直しを検証・改善フローに沿って行い、更新された内容を、4点セットに明記している。

取組を進める上で



○主任等が役割に基づいて、進捗管理に関わり、提案等を行っている。

⇒観点Ⅲ（主任等が効果的に機能する学校運営体制）

◇説明・演習〈2〉15:30～16:20



〈個人ワーク〉

「学校評価の4点セット」をツールとして共有し、短期に
検証・改善していくために、自校の「学校評価の4点セット」
の各種指標等について、朱書きを加えて、改善点を検討し
てみてください。

確認する上でのポイント

- ◆ 取組指標が具体化・焦点化されている。
- ◆ 客観的データを用いて、取組状況や達成状況の確認、児童生徒の実態把握が行われている。
- ◆ 取組状況と達成状況の確認がなされた上で、2つの指標の関係が検証され、各種指標等の見直しが行われている。
- ◆ 更新された内容（改善方策）等が次の4点セットに反映されている。

児童生徒の実態は絶えず変化していくもの

◆授業改善等，様々な課題解決に向けて，
マネジメントツールとして「学校評価の4点セット」を
さらに活用し，短期に検証・改善を進めることが必要

学校全体で組織的に作業

本日は、お疲れ様でした。

ご清聴ありがとうございました。

